

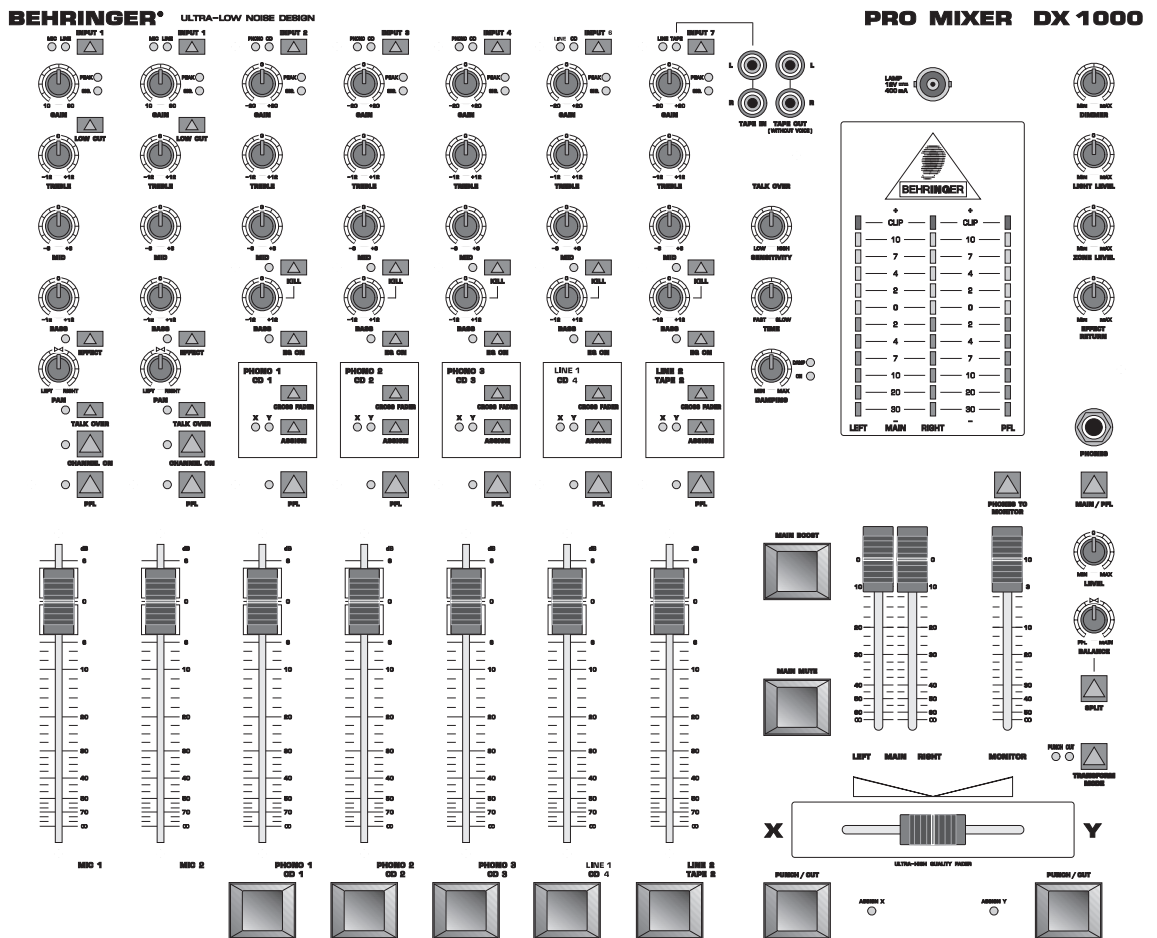
# DX1000

# PRO MIXER

## 概要

バージョン1.1 2001年2月

日本語



www.behringer.com

## 安全にお使いいただくために

**注意** 感電のおそれがありますのでカバーその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。製品内部には手を触れず、故障の際には当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。



**警告** 本機を水のかかる場所や湿気の多いところに置かないでください。火事や感電の原因となります。



このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が通じています。手を触れると感電の恐れがあります。



取扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前によくお読みください。

### 安全にお使いいただくためのより詳細な注意事項

本機をご使用前に「安全のために」と取扱説明書を通してご覧ください。

#### 説明書の保管

「安全のために」と取扱説明書は、一度ご覧になったあとも大切に保管してください。

警告に従ってください

製品及び取扱説明書に書かれている警告には、必ず従ってください。

指示に従ってください

取扱説明書およびユーザーズ・ガイドに書かれている指示には必ず従ってください。

#### 水分および湿気

本機は水の近く（浴槽、洗面台、流し台、洗濯槽の近く、湿気のある地下室やスイミングプールの近くなど）で使用しないでください。

#### 換気

本器具は、適切な換気を妨げない場所を選んで設置してください。ベッドやソファのカバーなど、通風孔をふさぐ可能性のある場所や、空気の流れを妨げる造り付けの棚や、キャビネットといった場所には設置しないでください。

#### 高温

本機は、電気ヒータや温風機器、ストーブ、調理台などの熱器具の近くや、アンプなどの熱源から離して設置してください。

#### 電源

取扱説明書あるいは製品上に指定されたタイプの電源以外には接続しないでください。

#### 電源コードの保護

電源コードを踏みつけたり、重いものをのせたり、挟んだりしないようご注意ください。また電源コードやプラグ、コンセントおよび製品との接続には十分に注意を払ってください。

#### お手入れ方法

お手入れは必ず取扱説明書にしたがっておこなってください。

#### 長期間ご使用にならない場合

長期間ご使用にならない場合には、電源プラグをコンセントから抜いてください。

#### 異物や水の侵入

通気孔から異物や水が製品内部に入らないようご注意ください。

#### 故障

以下のような場合には当社指定のサービス技術者に修理をご依頼ください。

- 電源コードまたはプラグが損傷した場合。
- 本機内部に異物や水が入ったとき。
- 雨にぬれた場合。
- 正しく作動しない場合、もしくは性能に著しい変化をきたした場合。
- 本機を落下させてしまったり、筐体が損傷した場合。

#### 修理

取扱説明書に書かれている以外の方法での修理は行わないでください。これ以外の修理については必ずサービス技術者にお問い合わせください。


この取り扱い説明書は著作権法上の保護下にあり、複製ないし復刻には、部分的なものを含め、また図面の複製は、変更したものを含め、BEHRINGER社の書面による許諾を必要とします。

BEHRINGER および FEEDBACK DESTROYER は登録商標です。© 2001 BEHRINGER Spezielle Studiotechnik GmbH.

## 1. このハンドブックについて


取り扱い説明書を読むのがとてもおっくうな作業であること、またお客様が、お買い上げのミキサー DX1000 を早く実際に使ってみたいと考えていらっしゃることも私どもは十分に承知しております。


もちろん、オーディオ機器の基礎知識があればこのミキサーを接続、使用することは可能です。しかし、より高度な機能についての解説を読まずに DX1000 が持つすべての機能を引き出すことは困難です。ですから、高価な装置を壊してしまうのを防ぐためにも、少なくとも安全についての注意事項が記された項目だけはよくお読みください。

 **DX1000** を使用するための最も基本的な条件は、音源、パワーアンプ、録音機器などの正しい接続です。腐食等の防止のために、すべての接続には金メッキプラグをご使用になることをお奨めします。また、不必要な雑音の発生を避けるため、マイクの接続にはバランス型ケーブルをご使用ください。なるべく頻繁に電源がきちんと接続されているかどうかをチェックしてください。

高価なプラグの使用は特に、接続を行った後、長期間にわたってそのままの状態でもミキサーが用いられるような場合に重要な意味を持ちます。(プラグが頻繁に取り外される場合には接点は摩擦によりある程度清浄にたもたれます。) クラブ等の室内の湿気は金属製プラグの錆の発生を促進することがあります。

入力端子とケーブルの接続方法の詳細については「10. 接続端子」の項をご覧ください。


 ラインレベルの音源は絶対にフォン入力に接続しないでください。CD プレーヤーやテープレッキの出力レベルが数ボルトの範囲であるのに対して、フォン入力系は数ミリボルト単位のレベルに対応しており、両者のレベル差は100倍程度に達します。

 スイッチをいれる前に、電源部の接続が正しく行われていることを必ず確認してください。スピーカー故障の原因になる電源投入時の衝撃電流の発生を防ぐため、パワーアンプの電源は最後に投入してください。パワーアンプを投入する際には、突発的な音響の発生を避けるために、DX1000 に信号の入力がされていないことを確認してください。また、同時に、すべての出力フェーダーを絞り、コントローラーをゼロ設定にしておくことをおすすめます。

## 2. DX1000 概要

### 2.1 電源アダプター

専用電源アダプターは DX1000 裏側の PSU (パワー・サプライ・ユニット) 端子 [72] に接続してください。

 コンセントに接続された電源装置をミキサーに接続することは絶対に避けてください。電源の接続はまず、アダプターと本体、次にアダプターをコンセントに接続し、ミキサー本体のスイッチは必ず最後に入れてください。

### 2.2 デスクトップミキサーへの改造

DX1000 装置本体のサイドパネルには 19 インチフレームが取り付けられています。

取り付け用のネジをゆるめて、フレームを取り外します。各サイドのフレームは取り付けられる側によりそれぞれ形状が異なっていることに注意して下さい。


### 3. モノ入力チャンネル

MIC 音源またはライン音源 (テープ、CD プレーヤーなど) を MIC [52] もしくは LINE 入力端子 [51] に接続し、チャンネルの調整を行うために通常の音量で MIC のテストまたは音源の試聴します。

#### 3.1 入力信号の選択

入力端子は本体裏側に設けられています。MIC 音源をライン音源の切り替えはスイッチ [1] で行ってください。付属の LED [2] にはどの入力端子が使用されているかが表示されます。

#### 3.2 入力レベルの調整

 レベルもしくは入力ゲインはイコライザーの設定に左右されます。レベルの微調整を行う前にまず、イコライザーの設定を行って下さい。イコライザーの設定を変更した場合にはレベル調整のチェックも忘れずに行ってください。


##### 3.2.1 Quick Wav

各チャンネルのレベルは2つの LED [3] によって表示されます。適正なレベル調整が行われている場合には SIG-LED が点滅し、ピーク LED は点灯しません。マイクチャンネルの入力レベルはゲインコントローラー [4] によって +10 から +60 dB の範囲で調整することができます。(マイクから供給される微弱な信号は大幅に増幅されなくてはなりません。)

+18 dB 付近で点灯するピーク LED はオーバードライブを警告します。

##### 3.2.2 PFL 機能を利用したレベル調整

PFL (Pre Fader Listen) 機能はレベル調整に用いられる最もプロフェッショナルな方法です。PFL スイッチ [13] が押されている間、チャンネル信号は PFL ディスプレイ [38] に送られます。レベルはディスプレイが黄色の範囲 (0 dB 付近) を示し、赤色のクリップ LED が点灯しないように調整します。レベル調整が済んだら、PFL スイッチを再びオフに戻してください。

 **PFL 機能を利用したレベル調整は一度に1つのチャンネルについてのみ行うことができます。(複数のチャンネルのPFLへの切り替えはディスプレイ表示を無効にします。)**

#### 3.3 インサートポイント

コンソールの背面には各マイクチャンネル用にインサートポイント [50] が設けられています (TRS ジャック、ポストゲイン、プリ EQ)。これらの入出力併用ジャックはコンプレッサー、ノイズ・ゲートなどのシグナルプロセッサをマイクチャンネル内に接続するのに使用することが可能です。


#### 3.4 イコライザー

マイクチャンネルのイコライザーセクションは3つのコントローラーと1つのスイッチで構成されています。Low Cut スイッチ [5] を押すと 75 kHz 付近のベース音域を 18 dB/Okt. カットすることができます。この機能はとくにマイク使用時の「ポッピング」や操作時に発生する他のノイズを防ぐのに効果があります。大音量での使用の際、Low Cut スイッチは低音フィードバックを低減させるのに使用します。TREBLE

[6]、MID [7] および BASS [8] の各周波数領域の調整は個別に設けられたコントローラーによって行うことができます。イコライザーはマイク音声の繊細な処理やフィードバックを防止するためにクリエイティブに使用しましょう。(イコライザーの仕様については下の表を参照してください。)

	イコライザー	周波数	レンジ	ノブの中央設定時
TREBLE	シェルビングEQ	10 kHz	+/-12 dB	オフ
MID	ピーキングEQ	750 Hz	+/-9 dB	オフ
BASS	シェルビングEQ	50 Hz	+/-12 dB	オフ

表 3.1: モノチャンネル用イコライザー

 マイクチャンネル内のフィードバックを完全にシャットアウトするためには、コンソール後部に設けられている各チャンネルのインサートポイントに FEEDBACK DESTROYER PRO DSP 1124P を接続するのが効果的です (10. 「接続端子」参照)。

### 3.5 出力信号

マイク出力信号は、直接 Main Mix に接続され、X-またはY-サブグループを通過しません。音量調整は高精度の 100 mm フェーダー [14]、ステレオポジション設定はパンコントローラー [10] で行います。このマイクチャンネル信号は CHANNEL ON スイッチ [12] を押すと Main Mix に出力され、LED がチャンネルの使用を表示します。(この CHANNEL ON スイッチは従来のミキサーの CHANNEL MUTE スイッチと正反対の機能を有しています。)

### 3.6 エフェクト

モノラルまたはステレオの外部エフェクターは DX1000 の Effect Send [53] と Effect Return [54] に接続してください。点灯している Effect スイッチ [9] を一度押すだけでボーカル音声にエフェクトをかけることができます。Effect Send の出力レベルはチャンネルフェーダー設定によって決まります。エフェクトの強度 (-∞ から +30 dB まで) はレベルメーターの右側にある Effect Return コントローラー [42] で調整してください。

## 4. ステレオチャンネル

フォン音源 (ターンテーブル) またはライン音源 (CD プレーヤーなど) を PHONO [59] もしくは CD 入力端子 [58] に接続し、チャンネルの調整を行うために通常の音量で試聴します。

## 4.1 入力信号の選択

入力端子は本体裏側に設けられています。MIC 音源をライン音源の切り替えはスイッチ [1] で行ってください。付属の LED [2] にはどの入力端子が使用されているかが表示されます。使用する入力端子は3から7のどのチャンネルを使用するかによって決まります。各チャンネルの入力端子との対応は以下の通りです。

チャンネル	入力端子 1	入力端子 2
3	PHONO 1	CD 1
4	PHONO 2	CD 2
5	PHONO 3	CD 3
6	LINE 1	CD 4
7	LINE 2	TAPE*

表 4.1: 各ステレオチャンネルと入力端子の対応

\* チャンネル7の TAPE 入力 [57] はミキサー上部の TAPE-IN [21] と並列に配線されています。

☞ ラインレベルの音源は絶対にフォン入力に接続しないでください。CD プレーヤーやテープデッキの出力レベルが数ボルトの範囲であるのに対して、フォン入力系は数ミリボルト単位のレベルに対応しており、両者のレベル差は 100倍程度に達します。

☞ RIAA プリアンプ内蔵のターンテーブルはライン入力に接続してください。

## 4.2 入力レベルの調整

☞ レベル調整はイコライザーの設定に左右されます。レベルの微調整を行う前にまず、イコライザーの設定を行って下さい。

### 4.2.1 Quick Way

各チャンネルのレベルは2つの LED [3] によって表示されます。+18 dB 付近で点灯するピーク LED はオーバードライブを警告します。SIG-LED は低周波数域にのみ反応し、ビートの監視に適しています。適正なレベル調整が行われている場合には SIG-LED がビートに合わせて点滅し、ピーク LED は点灯しません。各チャンネルの入力レベルははゲインコントローラー [4] によって -15 から +15 dB の範囲で無段階調節することができます。

### 4.2.2 PFL 機能を利用したレベル調整

PFL (Pre Fader Listen) 機能はレベル調整に用いられる最もプロフェッショナルな方法です。この機能を可能な限り多用することをお奨めします。PFL スイッチ [13] が押されている間、チャンネル信号は PFL ディスプレイ [38] に送られます。レベルはディスプレイが黄色の範囲 (0 dB 付近) を示し、赤色のクリップ LED が点灯しないように調整します。レベル調整が済んだら、PFL スイッチを再びオフに戻してください。

## 4.3 イコライザー

EQ-ON スイッチ [16] をオンにすると TREBLE [6]、MID [7]、BASS [8] の各周波数域をイコライザーによってブーストまたはカットすることができます。(イコライザーの仕様については下の表を参照してください。) イコライザーは特定トラックの音声信号を各周波数域のフェードイン、フェードアウトなどによって加工する場合に非常に頻繁に用いられます。Kill スイッチ [15] は BASS-EQ からの出力レベルをコントローラーの設定に関係なく最低減にまでカットします。


	イコライザー	周波数	レンジ	ノブの中央設定時
TREBLE	シェルビングEQ	10 kHz	+/-12 dB	オフ
MID	ピーキングEQ	750 Hz	+/-9 dB	オフ
BASS	シェルビングEQ	50 Hz	+/-12 dB	オフ

表 4.2: ステレオチャンネル用イコライザー

## 4.4 出力信号

音量調整は高精度の 100 mm ステレオフェーダー [14] で行います。

ある特定のチャンネルを Main Mix に出力するには、そのチャンネルの CROSS FADER スイッチ [17] を押してください。チャンネルの信号はこれによってステレオサブグループ Y または X に出力されます。出力先のサブグループは ASSIGN スイッチ [18] によって選択されます。LED [19] はこの時に選択されているサブグループを表示します。X- もしくは Y-信号はそこから各クロスフェーダー [33] の反対側に出力されません。


 チャンネルの作動 (=CROSS FADER のオン・オフ) は常にクロスフェーダーの下にあるマスター表示、ASSIGN X と ASSIGN Y に表示されます。

## 5. トークオーバー

マイク信号によってトークオーバー機能が作動した場合にレベルのカットを行う感度の設定は SENSITIVITY [23] で行います。

TIME [24] は自動的にカットされた音声再びもとのレベルに戻るまでの時間の設定に使用します。


トークオーバー機能が作動した時のカット量は DAMPING [25] で設定します。

 2つのマイクを使用する場合、トークオーバー機能の感度 (SENSITIVITY) を設定するには両方のマイクチャンネルをオンにしてください。

## 6. マスターオーディオ出力

### 6.1 クロスフェーダー

ミキシング作業の中心は水平に設置された ULTRA HIGH QUALITY FADER [33] の操作です。このフェーダーの操作により、X-/Y-信号の配分が決定されます。フェーダーが完全に左にセットされている場合にはXサブグループ、右にセットされている場合にはY信号のみが出力されます。この重要な役割をもつクロスフェーダーは非常に耐久性が高く、スムーズな動きを保証するデザインがなされています。ほとんどの場合、このクロスフェーダーはあるトラックから別のトラックへのフェードオーバーに使用されます。

 チャンネルの作動 (=CROSS FADER のオン・オフ) は常にクロスフェーダーの下にあるマスター表示、ASSIGN X と ASSIGN Y [36] で確認することができます。


### 6.2 PUNCH/CUT 機能を利用したトランスフォーミング

トランスフォーミングには TRANSFORM スイッチ [48] によって切り替えられる PUNCH と CUT の2つの機能が利用できます。使用中のモードは2基の LED [49] によって表示されます。X-/Y-サブグループの PUNCH/CUT キー [34] と [35] は使いやすいように併用されるクロスフェーダーのそばに設けられていま

す。この大型のキーは CUT モード時にはゲート効果を作り出すために X- / Y-信号の短時間のミュートを行うために使用され、また、PUNCH モード使用時には X キー [34] は X 出力信号を、Y キー [35] は Y 出力信号を Main Mix に出力するのに使います。

### 6.3 メイン／テープ出力

メイン出力のレベル (Main 出力 : 最高出力レベル +28 dBu / バランス出力、+22 dBu / アンバランス出力) は 2 つの 60 mm 高精度メインフェーダー [30] によって調節され、出力フェーダーの真上にある三色ディスプレイ [38] に表示されます。メイン出力にはサブグループ X-、Y-、各マイクチャンネルの信号とステレオエフェクトリターンバスの合成信号が出力されます。

 コンソール背面にあるテープ出力にはクロスフェーダーからの信号が直接送り込まれるため、この合成信号にはマイクチャンネル 1、2 およびエフェクトリターンからの信号は含まれていません。

### 6.4 メインブーストとメインミュート

大型の MAIN BOOST [28] と MAIN MUTE キー [29] はメイン出力の音量を短時間、4 dB ブーストもしくは 20 dB カットするのに使用されます。

### 6.5 ゾーン

ZONE ステレオ出力 [69] は独立の ZONE LEVEL コントローラー [41] を装備した第二の Main Mix 出力です。この出力は DJ ミキサーなどの独立したオーディオシステムにミックスを供給したり、クラブ内の別の部屋に音声信号を送るのに利用することができます。


### 6.6 エフェクトリターン

エフェクトリターンバス [54] はステレオ回路となっており、ライン信号 (最大ブースト量 30 dB) を直接、合成信号に投入します。信号のレベルは Effect Return コントローラー [42] で調節します。この回路にはモノラルまたはステレオのエフェクター出力を投入することができ (10□D 「接続端子」の項を参照)、また、ステレオチャンネルが 5 系統では足りないときには追加のステレオ入力回路 (DAT または MDレコーダー用) として利用することができます。

## 7. ヘッドフォン、モニター、PFL

### 7.1 モニター

DX1000 は独立のステレオモニター出力を装備 [68]、しています。モニター信号はメイン出力から直接取り出され、その出力レベルは 60 mm モニターステレオフィーダー [32] によってコントロールされます。PFL キーのどれか一つを押すとモニターソースは PFL に切り替わります。

 従来のレコーディングコンソールの場合 (=モニターバス出力のレベルはメインフェーダーによって決定) とは異なり、メインフェーダーの位置はモニター出力のレベルとは関係ありません。



## 7.2 ヘッドフォン — 注意してお読みください。


ヘッドフォンセクション (Phones Section) は DX1000 の右側、ステレオヘッドフォンジャックの真下に設けられています。ヘッドフォン出力 [43] の音量はレベルコントローラー [45] で調節してください。ここまでは基本です。次に機能のより詳しい解説に移ります。

**オプション 1:** PFL バスまたは Main Mix バスからの信号を PFL/MAIN スイッチの切り替えによって個別に出力する場合：PFL/MAIN スイッチ [44] をオンにするとヘッドフォン出力回路はモニターセクションと同様に機能します。(つまり、チャンネル固有の PFL スイッチのどれか一つがオンになっていない限り、ヘッドフォンには Main Mix 信号が出力されます。) スイッチがオフになっている場合、ヘッドフォンには PFL 信号だけが出力されます。(チャンネル固有の PFL スイッチが一つも入っていないときには、ヘッドフォンには何も出力されません。) 注：SPLIT スイッチはこのモードでは使用されません。

**オプション 2:** SPLIT スイッチ [47] を投入すると PFL/MAIN スイッチは自動的にオフに切り替わり、BALANCE コントローラー [46] が作動します。この時点でヘッドフォンミックスはステレオではなくモノラルとなり、BALANCE コントローラーの設定が PFL 信号と Main Mix の割合を決定します。この切り替えを利用すると、出力信号 (Main Mix) と入力信号 (PFL 信号) の両方をヘッドフォンでモニターすることができます。モニターフェーダーの上にある PHONES TO MONITOR スイッチ [31] を押すとこのヘッドフォン信号をモニター出力にも送ることができます。(PHONES TO MONITOR がオンになっているとき、モニター出力はヘッドフォンセクションからコントロールされます。)


## 7.3 パーマネント PFL — PFL バスのリスニングサブグループとしての利用

すでに見てきたように、PHONES TO MONITOR スイッチだけではなく、PFL/MAIN スイッチもまたモニター出力を PFL バスに接続します。これは PFL 信号と Main Mix 信号の自動的な切り替えは行われず、ステレオ PFL バスを独立の出力 (モニター出力) を持つサブグループとして利用できることを意味しています。

 モニターを **PFL** バスに接続するには、このほかにも使用されていないチャンネルの **PFL** スイッチを押したままにしておく方法があります。

## 8. サブ・ベース

コンソール背面のサブベース出力 [63] には出力レベル用コントローラー [62] (最高出力レベル +22 dBu) とローパスフィルターのクロスオーバー周波数設定用の X-OVER FREQ コントローラー [61] が装備されています。この出力回路は低音域用オーディオシステムを稼働させ、スタジオやクラブ内のサウンドにボトムエンドを付加するのに役立ちます。

 サブベースはミキサーの前に大型スピーカーを置くスペースが無いような小規模スタジオでの使用に効果を発揮します。

## 9. 外部装置のコントロール

### 9.1 デスクランプ

レベルディスプレイの上部には 12 V (5 Watts) 作業灯用のコネクター [37] が用意されています。明るさの調整は DIMMER コントローラー [39] で行います。

## 9.2 オーディオ機器のリモートコントロール

チャンネルフェーダー 3 から 7 の真下にある大型のボタン [20] は CD プレーヤーや CART マシンのような特定の音源の遠隔制御に用いられます。(ただし、これらの機器は遠隔制御可能な仕様である必要があります。装置付属の取扱説明書をよくお読みください。) 遠隔制御が可能な装置は DX1000 の後部にあるコネクタ [55] に接続することができます。ただし、接続の前にその装置のリモコン出力が (ほとんどありえないことですが) 30 VDC/50 mA 以上の電流を発生しないことを確認してください。

## 9.3 Sound-To-Light 機能

DX1000 はライティングコントローラー (証明コントロール装置) 接続用のモノ・オーディオ出力 [60] を本体後部に 6.3 mm フォンジャックとして装備しています。感度調整はレベルディスプレイ左側の LIGHT LEVEL コントローラー [40] で行います。感度設定が高すぎる場合、照明は常に点灯したままの状態となり、逆の場合には照明は音に全く反応しません。LIGHT LEVEL コントローラーは照明の点滅が曲のリズムに合わせて行われるように調節してください。

# 10. 接続端子

## 10.1 PRO MIXER DX1000 の接続端子

後部の接続端子：

- [50] **Channel Inserts:** エフェクト等のチャンネルへのインサート用 (プリフェーダー、プリ EQ)。フォンジャック、アンバランス型、入出力併用 (Send と Return)、Tip=Output、Ring=Input、Sleeve=Ground/Shield
- [51] **Line Input:** フォンジャック、バランス型、Tip=hot (+)、Ring=cold (-)、Sleeve=Ground/Shield
- [52] **Mic Input:** XLR、バランス型、Pin 1=Ground/Shield、Pin 2=hot (+)、Pin 3=cold (-)
- [53] **Aux Send:** フォンジャック、アンバランス型、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- [54] **Effect Return:** フォンジャック、アンバランス型、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- [55] **Remote Control:** フォンジャック
- [56] **Line Input (Input 7):** フォンジャック、アンバランス型、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- [57] **Tape inputs:** RCA ピンジャック
- [58] **CD Inputs:** RCA ピンジャック
- [59] **Phono Inputs:** RCA ピンジャック
- [60] **Light Out:** フォンジャック、アンバランス、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- [63] **Subbass Out:** XLR、バランス型、Pin 1=Ground/Shield、Pin 2=hot (+)、Pin 3=cold (-)
- [64] **Main Inserts:** エフェクト等の Main Mix へのインサート用。フォンジャック、アンバランス型、入出力併用 (Send と Return)、Tip=Output、Ring=Input、Sleeve=Ground/Shield
- [65] **Main Outputs:** XLR、バランス型、Pin 1=Ground/Shield、Pin 2=hot (+)、Pin 3=cold (-)
- [66] **Tape Out (with voice):** RCA ピンジャック
- [67] **Main Outputs:** XLR、バランス型、Pin 1=Ground/Shield、Pin 2=hot (+)、Pin 3=cold (-)

- 68] **Monitor Outputs:** フォンジャック、アンバランス型、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- 69] **Zone Outputs:** フォンジャック、アンバランス型、Tip=Signal、Sleeve=Ground/Shield
- 70] **Monitor Outputs:** XLR、バランス型、Pin 1=Ground/Shield、Pin 2=hot (+)、Pin 3=cold (-)
- 72] **AC Power In:** これは付属の電源アダプターとの接続用コネクタです。まず本体とアダプターを接続してから電源アダプターをコンセントと接続してください。

フロントパネル :

- 21] **Tape In:** RCA ピンジャック
- 22] **Tape Out (without voice):** RCA ピンジャック
- 43] **Phones:** フォンジャック、バランス型、Tip=Left、Ring=Right、Sleeve=Ground/Shield

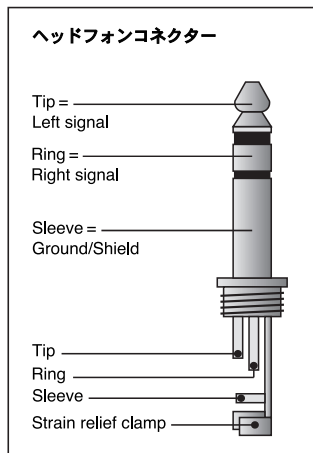


図 10.1: ヘッドフォン・プラグ

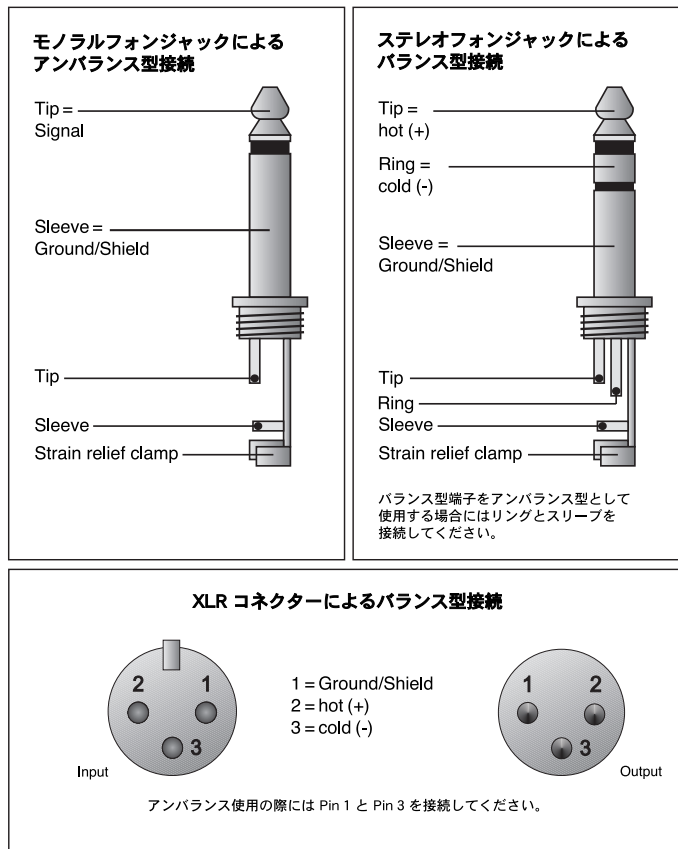


図 10.2: 各種プラグの比較

## 11. テクニカル・データ

### モノラル入力

マイク入力	電子バランス入力、別系統入力
増幅域	+10 dB ~ +60 dB
周波数帯域	10 Hz ~ 100 kHz +/-3 dB
ひずみ率 (THD&N)	-30 dBu、1 kHz で 0.06 %、帯域 1 kHz
ライン入力	
増幅域	+10 dB ~ +40 dB
周波数帯域	10 Hz ~ 100 kHz +/-3 dB
ひずみ率 (THD&N)	0 dBu、1 kHz で 0.03 %、帯域 1 kHz
S/N比	> 80 dB
イコライザー	
Low	50 Hz、 +/- 12 dB
Mid	750 Hz、 +/- 9 dB
High	10 kHz、 +/- 12 dB
Low Cut	75 Hz、 -18 dB/Okt.

### ステレオ入力

Phono/Line/CD 入力	アンバランス入力
増幅域	
ライン/CD	+/- 15 dB
Phono	+/- 15 dB (125 dB から 155 dB の間で可変)
周波数帯域	
ライン/CD	10 Hz ~ 100 kHz、 +/-3 dB
Phono	20 Hz ~ 20 kHz、 RIAA
ひずみ率 (THD&N)	
ライン/CD	0 dBu、 1 kHz で 0.025 %、帯域 1 kHz
Phono	-30 dBu、 1 kHz で 0.035 %、帯域 1 kHz
S/N比	
ライン/CD	> 80 dB, unweighted
Phono	> 70 dB, unweighted
イコライザー	
Low	50 kHz、 +/- 12 dB
Mid	750 Hz、 +/- 9 dB
High	10 kHz、 +/- 12 dB

### コネクター

メイン出力	
フォンジャック	0 dB
XLR	+6 dB
モニター出力	
フォンジャック	0 dB (最大ゲイン: 10 dB)
Zone 出力	
フォンジャック	0 dB (最大ゲイン: 10 dB)
Insert Send	0 dB
Insert Return	0 dB
Effect Send	0 dB

### 電源供給

供給電圧	アメリカ、カナダ	120 V ~、 60 Hz、 電源アダプター: MXUL1
	U.K.、オーストラリア	240 V ~、 50 Hz、 電源アダプター: MXEU1
	ヨーロッパ	230 V ~、 50 Hz、 電源アダプター: MXEU1
	一般輸出用モデル:	100 から 120 V ~、 200 - 240 V ~、 50 から 60 Hz
電源アダプター		
Modell MXEU 1	In:	230 V ~ / 50 Hz (250 mA)
	Out:	2 x 19.5 V ~ (1200 mA)
Modell MXUL 1	In:	115 V ~ / 60 Hz (500 mA)
	Out:	2 x 19.5 V ~ (1200 mA)

### 外形寸法および重量

寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	2.4インチ / 6インチ (60.96 mm / 152.4 mm) x 19インチ (482.6 mm) x 14インチ (355.6 mm)
重量 (電源アダプタ除く)	6.5 kg

BEHRINGER社は最高の品質水準を保つ努力を常に行っています。必要と思われる改良等は予告なしで行われますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する可能性があります。